

DanDan Vol.38



学んでつながる

「点と点がつながった」。思いがけない組み合わせで、思いも寄らない知識にたどり着いたときに使う表現です。学びによって得た知見は、元は小さな・(点)だった誰かと誰か、過去と今と未来、何かと何かをつなぐ



パートとなり、そうしてできた○(わ)がまた新たな学びや視点へつながるループの中で私たちは生きています。さあ、千代田区内に散らばる○のパートを探しに出かけてみませんか?

伝統を紡ぎ、未来へ拓く～神田明神文化交流館EDOCCO～



» 神田明神境内左手にひときわ目を引くモダンな建物があります。2018年に地下1階地上4階建てで建立された『神田明神文化交流館EDOCCO』です。コンセプトは、伝統と革新～神田明神だからできること。EDOCCOは、“EDO Culture COmplex”の文字から来ていますが、もちろん“江戸っ子”的意味も込められています。さまざまな文化の発信を目的に、多彩なイベントや講座を実施して、多くのお客様と共に学び、つながる施設としてにぎわいを見せています。広報担当の権禰宜 高島様にお話を伺いました。



▲参拝客が列をなす神田神社

神田神社(神田明神) 〒101-0021 千代田区外神田2-16-2 <https://www.kandamyoujin.or.jp>



千代田区立
九段生涯学習館
こころを育み 明日へつなぐ

- 学んでつながる○ | 伝統を紡ぎ、未来へ拓く～神田明神文化交流館EDOCCO～
- L.L.News | 九段フェス2025-わ- アフターレポート / シネマリス 開業直前レポート
- ちょっと探訪 | 喫茶トお酒 檻樓

創建1300年記念 特別企画講演『神道・神社の信仰とその歴史』

神田神社史編纂にあたり、専門性の高い講座でシリーズ開催されている。過去5年間で延べ2000人を上回る方が聴講されたとのこと。本年はだいこく様(大己貴命)、まさかど様(平将門命)について深く学び、座学だけでなく御祭神や神田明神と関係の深い全国の神社への参拝旅行も企画されている。過去には、将門公終焉の地として知られる茨城県坂東市を訪問したそうだ。



え



座show

和エンターテインメントショーレストラン。海外では、食事やお酒をたのしみながらショーを鑑賞するスタイルは一般的だが、日本ではまだ珍しい。ダンス・殺陣・歌ありの目にも鮮やかなレビューを展開し、和のエンタメの聖地として知名度を上げつつある。チーム「凱」は、平将門公の物語を軸に、チーム「結」は、小野小町の恋愛にちなんだストーリーを奏でる。

ZA-Show

訪日観光客のための文化体験プログラム 『明神笑楽座』

B1のEDOCCOスタジオでは、落語・太鼓樂曲芸・和妻などの寄席演芸を単なる観覧だけでなく、体験できるプログラムを提供。英語と日本語の通訳を交えた内容でインバウンド対応している。実際に体験することで、永く継承されている伝統芸能を理解する手助けとなっているのだろう。

Show-RAKUZA



学びの場としての役割『明神塾』

塾長をおき、年間テーマを設定して開講され、今年で28年目となる。九段生涯学習館でも講座を担当いただいている滝口正哉先生が塾長を務める今年度のテーマは「江戸の出版文化」。「尊重をかなり意識してのテーマですよ」と高島さまのコメント。寄席文字や浮世絵がテーマの講座などがラインアップされている。各回単独で完結するが、連続受講の方も多いとのこと。地域に密着したゲストスピーカーの登壇も興味深い。

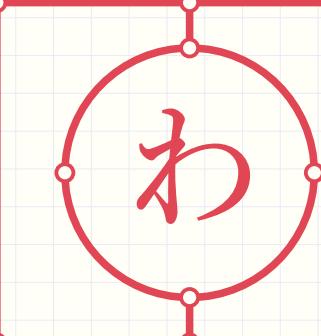
か



「今を生きる人々が求めるものを」

高島さまにお話を伺うなかで、何度も繰り返し聞いた言葉だ。「コンセプトの“伝統と革新”も相反するように思えるけれど、革新の連続が伝統をかたちづくると思っています」と語る。宮司の清水祥彦さまの言葉にも、「変わらないために変わり続ける」とある。変化し続けることが、伝統を紡ぐ秘訣なのだろう。●EDOCCO文化交流館の中には、おみくじや御朱印を扱う場所はもとより、神棚や神事に使う道具を販売するコーナーも設けられている。私たちが抱く神棚のイメージとは違い、手に取りやすくカジュアルともいえる感じがする。若い方にも人気だという。現代のニーズに適したスタイルを追求しているのだろう。●アニメキャラクターなどが丁寧に描かれ、美しく塗られた数々の絵馬にも感心した。買い求めた後、持ち帰って仕上げてからまた納めにいらっしゃるのだという。神田明神ならではの景色のひとつに違いない。「ラブライブ!」を皮切りにアニメの聖地としての座はゆるぎないので、取材に伺った時も「神田祭×薬屋のひとりごと」の企画展に大勢のお客様がいらして、グッズを求める列ができていた。どんなきっかけで訪れたとしても、神社が持つ神聖で新鮮な空気にふれることで、内なる何らかの変化に気付くこともあるだろう。一角に居を構える神馬のあかりもつぎつぎ訪れる新しいお客様のにぎやかな様子に驚いているかもしれない。

Tradition & Innovation





九段フェス2025-わ- アフターレポート

2025.3.22[土]・23[日] @九段生涯学習館

L.L.News1



●生涯学習ミニ講座

さまざまな講座をより気軽に体験していただける、生涯学習ミニ講座。その中のひとつ「世界で一つのカラフルペンスタンド作り」は、過去に大人向けに行った内容をお子さま対象にアレンジした講座でした。自由な発想に、講師も担当スタッフも驚きの連続です。



●サークル紹介スライドショー

当館に登録の32サークルが日頃の活動風景や貴重な作品制作過程を写真におさめ、紹介文とともに上映しました。当館1階エントランスで毎日上映、Youtubeでも配信中!

»九段生涯学習館が利用団体のみなさまと一緒につくる「九段フェス」。今回は舞台発表とサークル紹介スライドショー・講座・展示各部門合計49サークルが参加し、過去最大規模での開催となりました。当日の模様をレポートします!



▲薪割り体験

▲アルコールインクアートで
つくるペンスタンド



オリエンタルな
空気にうっとり
ペリーダンス



▲ダンス
の発表

●舞台発表

歌唱やダンス、朗読、楽器演奏、伝統芸能など多種多様なサークルが一堂に会し、年々パワーアップする舞台発表! 過去最多44サークルが限られた持ち時間の中で、素晴らしいパフォーマンスを披露されました。1日の発表を通してご覧になるお客様や、サークルの応援団で観客席も満員御礼です! 「いろいろなジャンルの発表があって楽しめた」というお声もいただきました! 1年間の成果発表と応援のまなざしがつながって、暖かな“わ”が広がる舞台発表となりました。

Youtube当日アーカイブ



22[土]



23[日]



▲歌に小さなお芝居を交えたパフォーマンス



シネマリス 開業直前レポート

L.L.News2



▲映画館予定地前で

●この夏、神保町・御茶ノ水エリアに新たなミニシアターが誕生します。ゼロベースで映画館をつくるという並大抵ではない挑戦をされている支配人の稻田さん(写真右)、そして長年映画館のスタッフを務め、豊富な経験と知識で支配人をサポートしている藤永さん(写真左)にお話を伺いました。●「居場所としての映画館」をコンセプトとして掲げるシネマリス。書店のようにふらりと立ち寄る場所の選択肢のひとつとなることをめざしています。ある人にとっては隠れ家であり、時には逃げ場所となるかもしれません。ゆるく、気軽に。映画好きではあるけど、詳しくなくていい。だからこそ、上映作品も先鋭的すぎないチョイスを予定されていることです。

●まだ工事中の現地にお邪魔すると、色や形の

バラバラな椅子
が数種類置いて
あるのが目に入りました。閉館した

映画館などから譲り受けたものだといいます。支配人ご家族たった2名

で始めたプロジェクトが、SNSや独立系映画館同士の横のつながりを介して形になっていきました。そのつながりが目に見て感じられるアイテムです。●お仕事や学校に通う方には、家との間のワンクッションとして。そしてもちろん近隣にお住いの方も、「ご近所の映画館」として愛してもらえば、と稻田さんは語っておられました。当館からも歩いて15分程度の映画館、幕が上がるのもうすぐです。



▲スクリーン側から後方を眺める

〒101-0052 千代田区神田小川町3-14-3 地下1F
X >>> @CineMalice2024

ちょ

っと探訪⑬ Chiyotto Tanbou

喫茶トお酒 檻樓 ぼろ

『ちょっと探訪』では、知る人ぞ知るちよだの魅力に迫ります。

第13回は、歴史ある建造物でコーヒーとアートに浸る、「喫茶トお酒 檻樓」を紹介します。

神保町愛を語る
小暮ともこさん

 ノスタルジックなレンガ造りの外壁に温かな光が灯り、神保町の狭い路地を静かに照らしている。2024年2月、かつて三島由紀夫ら文士たちも通ったとされる喫茶「ランボオ」「ミロンガ・ヌオーバ」の跡地にオープンしたのが「喫茶トお酒 檻樓(ぼろ)」である。

同じく神保町のGALLERY KOGUREが経営する、“アートと喫茶”が融合した空間だ。築およそ100年の木造建築には、長い時を経て刻まれてきた人々の記憶が宿っている。壁には同ギャラリーが所蔵する近現代アート作品の数々。ランプカバーをはじめとしたインテリアも、オーナー・小暮洋氏が長年かけて蒐集してきたコレクションだ。



△なかには刺激的な作品もあるが不思議と空間になじんでいる



神保町のエッグオンエッグスパゲティ

「神保町が大好きなんです」と話す小暮ともこさんは、「地域とのつながり」を何よりも大切にされていて、コーヒーや軽食の材料ができる限り近隣で調達しているという。ここでしか味わえないメニューのひとつが、卵黄醤油ソースの「エッグオンエッグスパゲティ」。檻樓ならではの逸品だ。

 人々に愛され続けて1世紀が経過しようとするこの建物で、GALLERY KOGUREのアートを取り入れ新たな憩いの場となったこの喫茶は、これからも神保町の一角で歴史を重ねていく。



店名の由来でもある檻樓

INFO 〒101-0051 千代田区神田神保町1-3-22 西印度館1F-A ☎ 080-4807-3949 [営業時間] 火～木 11:30～19:00 金・土 11:30～23:00

〈編集後記／小野田〉

毎年、神田明神に初詣に行っている。左右に並ぶ屋台から立ち上るおいしそうな匂いに誘われ、何を食べようかと悩むのもまた楽しく、1時間以上の待ち時間も苦にならず助かっている。今回、権禰宣の高島さんにお会いして、お話を聞き改めて人々に寄り添い、愛される神社であり続けることの難しさを感じた。築き上げた歴史に慢心することなく変わり続ける姿に注目していく。

DanDan読者アンケート

皆さまのご意見・ご感想をぜひお聞かせください。アンケートフォームよりご回答いただき、九段生涯学習館1階受付でメール画面をご提示いただいた方には当館オリジナルグッズをプレゼントいたします。

※先着順／なくなり次第配布終了となります

